

異文化経営学会賞

2016年度学会賞は下記の1名に授与されました。

研究発表部門

井上 泉（株式会社ジャパンリスクソリューション）

「企業不祥事における個人と組織」

（2015年第3回研究大会 2015年11月14日にて発表）

学会賞 講評

学会賞委員長 藤澤武史（関西学院大学）

研究発表部門

本研究発表は、日本の代表的な企業不祥事を実証的に分析し、コーポレート・ガバナンスにおける組織と個人の問題点を明らかにし、今後の企業組織構造のあるべき方向性を提言したものである。井上氏は長年にわたり、企業における実務を通じて積み上げた知識を、近年は論文や研究発表を通じて、アカデミックに発信を行っている。また文真堂から『企業不祥事の研究』と題する単著を上梓している。本報告は、限られた時間をフルに活用し、実践と理論の両面から、見事に当該演題を説き起こしており、研究発表の模範とも言える構成とデリバリーであった。啓発的な内容であったため、会場での質疑も極めて活発であった。

受賞のことば（研究発表部門）

井上 泉（株式会社ジャパンリスクソリューション）

第4回異文化経営学会賞を受賞する榮譽を賜ったことは大変名誉なことであり、まことにありがとうございました。

思い起こしますと、馬越会長先生から、研究発表してはどうかというお勧めを頂戴したときは、実は別の学会からの講演依頼もあり、また関与先企業からの業務も立て込んでいた時期でしたので、これらを同時に走らせることにためらっておりました。しかし、まあ何とかなるだろうとチャレンジすることにしましたが、想像以上に奥が深く苦勞しました。しかし、今回表彰をいただき、やってよかったという思いでいっぱいあります。

私は20年以上前から企業不祥事に関心を持ち、研究をして参りました。その間10編ほど論文や本を執筆し、多くの場で講演や発表をしてきましたが、研究の焦点というのは、常に不祥事の場に登場する人間そのものにあります。法律や制度はコーポレート・ガバナンスを円滑に動かすために必要不可欠なものですが、それだけでは不祥事を律することはできません。なぜ人は不祥事に踏み込むのか、そのときその人は何を考えていたのかという人間性や人間心理についての考察が不祥事を考えるときに不可欠と考えます。

賞をいただいた「企業不祥事における個人と組織」では、企業不祥事の再発防止に関し、ややもすると仕組みや法律面での論議が前面に出がちですが、これに追加するに、人の要素を経営者層と社員層の2つのカテゴリーに分けて不祥事の発生原因を分析し、それぞれのカテゴリーにおける対処方法を提言するという事にチャレンジいたしました。それについていささかでもご関心を持っていただいたとすれば、大変うれしく思います。今後この基本スタンスは、企業を構成する経営者と社員それぞれに課せられるビジネス倫理のあり方に拡張していくべきものと考えています。

今後とも引き続き企業不祥事における人間を見つめ続けるとともに、異文化研究にもつながりますが、欧米特にアメリカとドイツの会社の機関設計のあり方と日本のそれとを比較検討し、どのようなガバナンスが我が国に向いているのかなどについても研究を進めて参ります。